

がんの手術と周術期 リハビリテーション

Enhanced Recovery After Surgery (ERAS®)をご存じですか。欧州から広まった術後回復促進策のことで、基本的な考え方は生体侵襲反応の軽減、身体活動性の早期自立、栄養摂取の早期自立、周術期不安軽減と回復意欲の励起であるとされています。医学的根拠のあるケアを組み合わせることで、手術の安全性を高め、合併症を減らし、早期退院、再入院を減らすことができると、世界中へ普及しています。

また、手術を安全に乗り切るには、術前から術後にかけて起こりうるさまざまなリスクに迅速に適切に対処することが大切です。手術に伴う侵襲以外に、患者さんの年齢、体格、生活習慣、既往症、精神状態、運動不足も回復の妨げのリスクになるため、手術の前からリスクコントロールを始める必要があります。

当病院の周術期リハビリテーションチームはがんの術後回復促進を達成するために、2019年度に発足しました。術前に外来で体力検査を行い、周術期のリスク要因の抽出と術後のオリエンテーションを通して、術後をイメージした体の準備をお勧めします。入院後は、担当医の指示のもと看護師らと協働し、手術翌日から安全に配慮しながら運動負荷試験と安静の解除、活動範囲の拡大を進めていきます。2019年6月のチーム発足以後、肺・胃・肝・胆道・膵・大腸がんの手術のために入院された患者さんの在院日数は、それ以前と比べて、16日から12日（中央値）へと短くなり、リハビリテーションに要する期間も9日から6日（中央値）へ短縮しました。今後も患者さんのご要望にお応えできるチームケアを目指して参ります。

リハビリテーション部 池宮城 夢

